

第2報告（13：15～14：00）：神山智美（富山大学・教授）

「動物福祉の席卷による国際取引への影響—毛皮（リアルファー）からフェイクファーへ」

要旨：

毛皮の活用に対しては、批判的な論調が強くなってきている。各種有名ブランドも、「ファーフリー」を打ち出している。その背景には、サステナビリティやエシカル消費の台頭がある。希少野生動植物保全のみならず、動物福祉の観点からも、毛皮工場といわれる動物飼養施設への批判は激しくなっている。そこで、報告者は、3つの観点からこの問題を取り上げたい。1つ目は、野生動物保全の観点であり、「国際人道的捕獲機基準協定（AIHTS）」のように括りわなの禁止を含めて、様々なわなや捕獲等に対する動物福祉の観点がどこまで浸透しているかという点である（日本はAIHTSは未だ未締結）。2つ目は、日本国内の毛皮産業への規制とその執行状況を調査することである。3つ目は、EU、ロシアおよびカナダを中心とする「国際人道的捕獲機基準協定（AIHTS）」が、毛皮を利用するファッション等にどのような国際取引上の問題点を提示しているかを明らかにすることである。昨今では、EUがグローバルなレベルでの環境イニシアティブを握っており、その基準を満たさない物はグローバル市場から締め出される傾向にあることから、国際条約の国内執行法化は重要であるものの、他方で、日本の「マタギ文化」等の固有の歴史と文化に根差した伝承は重視されるべきであるとも言え、その調整が必要と考えるからである。